

---

# 飼い主の心得

莎月 双樹

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

飼い主の心得

### 【Nコード】

N7193X

### 【作者名】

莎月 双樹

### 【あらすじ】

9月の土曜の夕方、いつものように散歩に出ているあたしが出くわした異世界トリップのお話。

## 01 ほんやり散歩は危険でした（前書き）

- 1：少なくとも“あたし”について糖度はほぼゼロです。
- 2：使い古された設定かもしれませんが、内容は純粹に作者の逃避心あふれる妄想の結果となっております。
- 3：作品全体を通じて、主観及び個人的経験を基にした記述が多いです。

どうぞご了承ください。

## 01 ぼんやり散歩は危険でした

9月の土曜の午後6時すぎ。

いつものように散歩に出て、いつものコースを歩く。

いつもと変わらない日常のはずだったのに。

朝晩涼しくなったよねとか。過ごしやすくなってきたのはいいけど、この季節って短いんだよねとか。

他に人や車の通りが無いのを良いことに、ここ数年の初春や初秋に定番になったことを思いながらぼんやり歩いていたのが悪かったのか。

右手首にぐいっと引つ張られる力を感じてそちらを見れば、視線の先にはぼつかりと開いた真つ黒い“穴”。

マンホールの蓋が外れてる？ とっさに思ったものの、すぐに打ち消した。

だって、よく見りや電信柱と地面にまたがって開いてんだもの（んなマンホール無い無い）。  
そんなヒラメキ&ツツコミの間も引つ張る力は弱まることなく続き。

いえね、一応踏ん張りましたよ。踏ん張ったんですけどね、いかんせん綱引きのスキルを持ってないあたしにや無理でした。（右腕も痛かったし。）

最後はスポンと穴に吸い込まれました。

「……………」  
「……………」

ざわめきで気がついた。どうやら少し気を失っていたよう。

あたしでも気絶してるんだわ〜なんて、ちよつと感動。いや、自分にそんな可愛げがあるなんて、これっぽっちも思ってたんで。え、別問題？

「……………」

なんか固い床の上に突っ伏しているみたいである。とりあえずセルフチエーツク！

……引っ張られた右手首がちよつと疼くくらい。他に痛むところはなし。

と確認してみたところでゆっくりと起き上がってみる。いきなり立ち上がって立ち眩みおこしちゃマズイから、まだ座り込んだままね。

「……………」  
「……………」

うわあお。

真っ先に視界に入ったのは、3mくらい離れて取り囲むように立つ人・ひと・ヒト。

しかもアレですよ、奥さん！（いや、特に誰ってわけじゃないけど。）

皆さんファンタジー（貫頭衣ってやつ？）系な衣装に、頭の上には獣耳ですよ！！

形は三角尖つたのから丸いので、大小&色は様々なケ・モ・ノ・  
ミ・ミ！！

でもって、人壁の向こうの石造りな壁の窓の向こうには、昇ったばかりなのか、おつきな青銀の月と小さな白い月。

あたしが煩惱獣萌えくな夢をみているんじゃないや、アレですか？ トリップってやつですか？

右手首もまだ痛むし、やっぱこれって現実よねえ。 え、あたしってば余裕すぎ？

ふっふっふ。アダルトチルドレン現役だった兄&姉を持ったおかげで、気がつけば“ライトノベル”なんて言葉ができる前からの初期作品が身近にあったこのあたし。召還・トリップ物なんて、これまで飽きるほど読みましたよっ！！（もちろん、リアルに起きるなんてコレっぽっちも思っちゃんかったケド。今でも読んでるケド。）

「白く麗しい・・・」

「・・・力に満ちている・・・」

と、そこでハタと気づく。

ところでコレって召還？ それとも落ち系トリップ？

ちよつと距離のあるところで踏ん張ったのに引き込まれたんだから落ち系とは思えないけれど。でも、「召還の儀式してましたー」なんて雰囲気でもないのよね、なんか。

そう、敢えて言うなら「集会やってたら急に部屋の中に（知らない&奇妙な格好の）人が出て来て遠巻きに見てる」みたいな？

ま、単なるハブニングじゃなけりや、何かしらここに来た意味ってあるんだろし 勇者？ 神子？ それとも今流行りの魔王？ 嫁ってことは無いと思うけど（年齢的に 痛！）。生け贄とかは却下ね（もしコレだったら速攻逃げる）。それとも……。

「よつこそ、我らがケンロウ国へ」

年の頃は20代後半の、一際背の高い男が進み出た。野生味の強い整った顔立ちに、後ろを長めに伸ばしたウルフカットの銀髪の上にピンと立つ三角の耳は 狼耳？

着ている服もさりげなく上等そうだし、こりゃテンプレの“若き王”ってヤツかいね？

あたしの観察対象のその男は、右手を胸に当て片膝をつくくと、

「一同、心より歓迎申し上げます。姫」

左手を、あたしの右側へと伸ばした。

その手の先を見れば、そこにはあたしと一緒に散歩に出ていた、愛犬の風花号（白の秋田犬、雌、生後11ヶ月）。

本命はそつちワシユかいっ！！

……あたし、たちばなで橘奏、（人類、女、アラサー）。  
飼い犬のおまけで、異世界トリップしたようです。

## 01 ほんやり散歩は危険でした（後書き）

すみません、やっちゃいました。

書きかけの短編数編ぶつちぎつての連載投稿でございます。

ラブ（ほぼ）ゼロの数編で終わる予定です。

お暇つぶしでご覧いただければ幸いに存じます。



## 02 消えたら探すに決まっています

自分の人生初のトリップがまさかのペット巻き込まれだったことに（あたしとしたことが）しばし呆然としたものの。

いやいや、一緒に散歩に出た時じゃなかったら、大事な家族がかっさらわれていたかもしれないと思い直す。

身臍かみほしは承知で言うが、ふうちゃん（風花号 風花 ふうちゃん）は可愛い。頭のとっぺんから足の先まで、体毛はどこをとっても真っ白の中毛ふわふわで、日本犬の特徴であるクルンと巻いた尻尾はこれまたふっさふさ。丸っこい顔にやや丸みを帯びた三角の耳（この耳裏の毛が特に柔らかいって知ってます？）。黒に近い濃い茶の目はいつもウルウルで、その目でじっと見つめられて「遊んで？」なんて訴えられたら逆らえないんだからっ！！（和犬好きな方には理解していただけるはず！）

両親が相次いで病死して、年の離れた兄と姉もそれぞれ仕事の関係で遠くに居を構え疎遠になった後、縁あって生後2ヶ月で我が家に来たふうちゃんは、今の私にとって唯一の家族と言える存在だった。そんな彼女が急にいなくなってしまうたら。

もちろん探すに決まってる。抜け出してどこかで迷子になってるんじゃないかと、声を囁らして名前を呼んで。「謝礼します」って迷い犬のポスター作ってあちこち貼って。野犬に間違われて連れて行かれたんじゃないかって動物保護センターに問い合わせる。

自分が体験したんじゃないけりやあまさか異世界トリップだなんて思いもしないだろうから、心配して探して探して。でもきつと見つからなくて。

………仕事が手に着かなくなってクビになって路頭に迷うことになったらどーしてくれんのよ！ 今日日まよひペット養っていくのはそれなりに経済的基盤が要るんだからね！！

………

いやいやいかんいかん。二呼吸ばかりの間に不吉な想像しちゃったわ。

意識を現実（でいいんだよね？）に戻せば、イケメンの狼陛下（仮称）に手を差しのべられたふうちゃんは、警戒心を露わに立ち、しかし怖いのかさりげなく体の脇をあたしに押し付けてきている。

落ち着かせようと右手で背を撫でると、赤い首輪につながったりリードの鎖部分がジャラリと音を立てた。（ちなみにリードの先の持ち手・皮の輪っか部分に右手を通して散歩していたのである。これが引つ張られて痛かった。）

「なんとおいたわしい……」

「姫を鎖に繋ぐとは……」

そう大きくない音だったのだが、獣耳はよく聞こえるのか、鎖の音に皆さんご反応。空気にトゲトゲしいものが混じる。狼陛下を筆頭に、それまで空気状態だったあたしに、一斉に“敵意”のこもった視線が向けられた。

いやあ、さすがにこれはキツイわ。

ホールドアップしようかしら、と思ったあたしよりも先に反応したのはふうちゃん。あたしに向けられた敵意に対し、周囲の皆さんを敵認定したもよう。あたしの膝を跨ぐように前に出ると、体をあたしに押し付けながらも唸り声を上げる。まるで庇うように。

……こんな時に不謹慎かもしれないけど、この健気さ可愛いっ！  
「愛おしさがこみ上げて後ろから襲おう　背中から抱きつこう  
かと思っただじゃないの！！」

思わず顔がニマニマとなる私とは対照的に、救い出そうとした（  
んだろうね、たぶん）相手に威嚇されて動揺する獣耳さんズ。  
不謹慎で申し訳ないケド、いや〜、なんか優越感？　ほお〜ら、  
アナタたちが仲良くしたいふうちゃんはあたしにラブなのよん  
みたいなの？

うん、我ながらやっぱりイイ性格してます。

「このままでは埒があかぬ。“聖水”を持ってまいれ！」

そう叫んだのは、狼陛下の後ろにいた背の低い丸耳のおいちゃん。  
……えー、タヌキさんかな？

あいかわらず警戒態勢のふうちゃんをドウドウと宥め（撫で）  
ながら、とりあえず様子見です。……あたしへの敵意はともかく、  
ふうちゃんを傷つけるようなコトはしなさそうなんで。

ものの5分と経たずに、下っ端っぽい人がガラス瓶のような物を  
持ってきた。中には何か液体が入っているのが見て取れる。

瓶（仮）を受け取った狼陛下（仮称）は、フタをキュポン（あ  
らいイ音）と開けると、

「姫、失礼いたします」

言うなり中身をふうちゃんに振りまいた。　距離があるのに見事  
な狙いだね。

当然、ふうちゃんはビックリしていつそうあたしに体を押し付け  
る。

「あらあら、ふうちゃん大丈夫　　っう？」

量は多くなかったものの（小瓶だったし）、水（っぽいモ）をかけられてフル

フルと頭や耳をふるわせて振り払っていたふうちゃんが、急にうつすらと光りだした。全身を淡い光りが包み、それが少しずつ強くなつていくのを、あたしは心の中で「ふうちゃんが、ふうちゃんが光ったー！」とアルプスの少女の名ゼリフ風に叫びながら見ていた。

……やがて、その光が消えると。

あたしの膝を跨ぐように四つん這い状態の、女の子がそこに居た。こーれーはー。

どー考えてもー。

えー、皆さま（いや、やっぱり誰につてわけじゃないんだけど）うちのワンコが人っ娘ひとこになったようです。

## 02 消えたら探すに決まっています（後書き）

犬が好きです。

日本犬好きです。柴や日本スピッツも良いですが、やっぱり秋田です

抱きつきがいのある大きいコが好みです。

洋犬ならシェパードとかアラスカンマムトとか。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7193x/>

---

飼い主の心得

2011年10月19日08時16分発行